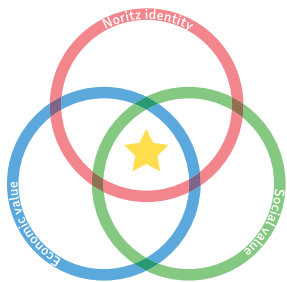


経営とCSRの融合



ノーリツグループは、ステークホルダーとの双方向コミュニケーションを通じて社会の要請と期待を感じ取り

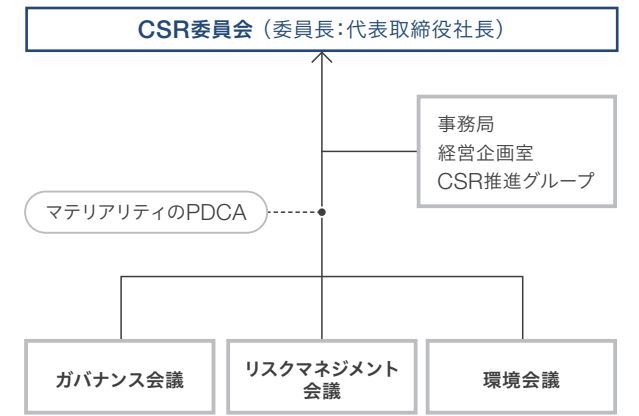
- 事業戦略に沿った経済的価値
- 事業活動を通じて社会課題の解決に貢献する社会的価値
- ノーリツらしさを追求するブランド価値

の3つを深く融合した事業活動を進めています。  
この取り組みを通じて、すべてのステークホルダーの笑顔と感動、すなわち「新しい幸せを、わかすこと。」を実現していきます。



CSR推進体制

ノーリツグループは2007年よりCSR委員会を設置し、2017年より4回/年開催しています。代表取締役社長が委員長を務め、取締役、執行役員、監査役で構成されており、『Q+ESG』のKPI進捗や傘下の各会議体から上程された課題について審議・決定し、PDCAマネジメントを推進しています。



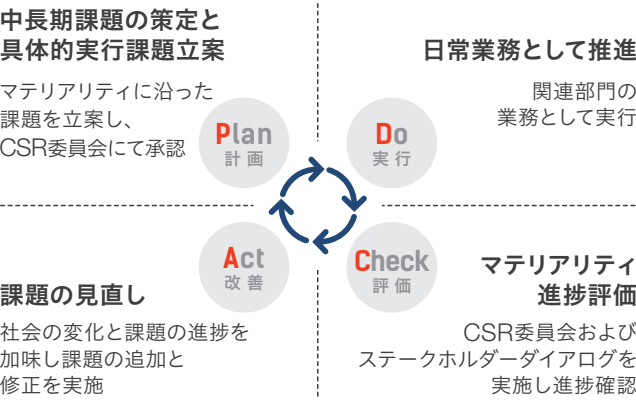
※2017年体制

マテリアリティ

ノーリツグループは、サステナブルな経営をおこなう上で、リスクを認識し新たな機会として展開すべきテーマをマテリアリティとして特定しています。2017年は「Vプラン20」の達成に向け、『Q+ESG』のKPI(主要パフォーマンス指標)を設定しました。

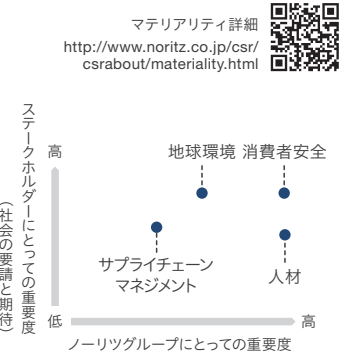
社内関連部門の意見を反映したKPI案について、ステークホルダーダイアログで妥当性の確認をおこない、その意見をふまえたKPIをCSR委員会で承認しました。

2017年の活動



マテリアリティ分析マップ

国際社会が継続的に発展する上で必要な課題、ビジネスの環境変化、CSR最新動向、国際基準などを加味し、ダイアログを経てマッピングをおこないました。



| マテリアリティ            | 「Vプラン20」との関連                              | リスク                          | なぜ必要か                                          | 戦略                                |
|--------------------|-------------------------------------------|------------------------------|------------------------------------------------|-----------------------------------|
| 地球環境               | 施策1<br>事業ポートフォリオの「再構築」                    | ・気候変動による脱炭素化<br>・グローバルでの環境規制 | ・家庭のエネルギーの約60%が、給湯・暖房・厨房分野で使用                  | ・省エネ技術の開発と展開                      |
| 消費者安全              | 施策2<br>国内事業の「収益力強化」                       | ・経年劣化による事故                   | ・安全・安心の確立<br>・信用、信頼関係構築<br>・顧客情報整備             | ・お客さまとのコミュニケーション                  |
| 人 材                | 施策3<br>海外事業の「継続拡大」<br>施策4<br>企業風土の「改革」    | ・労働人口の減少<br>・人権対応<br>・人材育成   | ・グローバルスタンダードの認識とリスクの把握<br>・価値観の共有<br>・次世代経営層育成 | ・グローバル人材の育成<br>・コミュニケーション         |
| サプライチェーン<br>マネジメント | 施策2<br>国内事業の「収益力強化」<br>施策3<br>海外事業の「継続拡大」 | ・人権問題（児童労働、強制労働など）<br>・安定調達  | ・紛争鉱物や現代奴隷法などのグローバル規制<br>・安定調達基盤確立             | ・取引評価基準の定期的な見直しと運用<br>・定期的なSAQと確認 |

バリューチェーンで見るCSR活動

ノーリツグループが重視するSDGsとバリューチェーンのCSR活動

ノーリツグループは国際社会の一員として、2015年に国連で採択された「持続可能な開発目標 (SDGs)」(全ての国連加盟国が2030年までに取り組む17の目標)の実現をめざすことを機会と捉え、事業活動を推進していきます。

温室効果ガスを排出する機器を製造・販売する企業として「気候変動対策」と、「つくる責任／つかう責任」の2テーマをバリューチェーンを通じて取り組みます。

| 調 達                                    | 開 発・生 産                                                | 輸 送                | 販 売・サ ー ビ ス                                               | 使 用                                       | 廃 棄・リ サ イ ク ル        | 重視するSDGs項目        |
|----------------------------------------|--------------------------------------------------------|--------------------|-----------------------------------------------------------|-------------------------------------------|----------------------|-------------------|
| CSR調達<br>調達BCP<br>新規取引先評価<br>取引先との価値共有 | 社会課題解決型商品の開発<br>製品の安定供給<br>化学物質の管理・削減                  | 物流品質向上<br>納期の確約    | 販売店・サービスショップとの協業<br>お客さま満足度向上<br>アフターサービス体制構築<br>情報セキュリティ | 快適な住環境の提供<br>製品に関する適切な情報開示と点検時期のお知らせ      | 障がい者の雇用創出<br>製品の再資源化 | 12 つくる責任<br>つかう責任 |
| 使用材料の小型、軽量化<br>調達拠点の最適化                | 環境性能に優れた製品開発<br>製品の長寿命化<br>再生化エネルギー・省エネ設備の導入<br>生産効率向上 | 輸送の効率化<br>物流拠点の最適化 | 環境配慮商品の販売<br>使用期間の延長                                      | 環境性に優れた使用方法アナウンス<br>使用エネルギーの見える化による環境意識向上 | リサイクル率向上<br>不法投棄防止   | 13 気候変動に具体的な対策を   |

ステークホルダーダイアログ

様々な分野の有識者を招き取締役全員が参加するステークホルダーダイアログを継続して実施しています。

また、マテリアリティの進捗評価や新たな課題追加のための重要なプロセスとして捉えています。この中で、ノーリツグループの持続的成長に向けた経営課題や戦略について意見交換し、事業活動に展開していきます。



ステークホルダーダイアログ グループディスカッション

2016年ダイアログに対する2017年度の取り組み

中期経営計画「Vプラン20」に、これまでCSRとして取り組んできた、「経済的価値」「社会的価値」「ブランド価値」の3つの価値を組み込み「経営とCSRの融合」を図っています。

経営とCSRの融合には、「ミッション・バリュー」の理解・浸透が必要と考え、携帯できるカードや冊子を作成し、グローバルで理念浸透をおこなっています。また、CSR委員会も2回から4回へと議論の機会を増やしました。

2017年ダイアログのポイント

3つの価値の向上をめざしたKPIの妥当性および、展開・マネジメントに関する内容と、事業に沿った3つのテーマで戦略的に取り組む具体的内容についてグループディスカッションをおこないました。寄せられたご意見を真摯に受け止め『Q+ESG』のKPIを設定しました。

対話の内容(一部)

エンドユーザー接点の構築

社会課題解決型商品を販売する上でのエンドユーザーとの接点構築

人材育成

グローバル化拡大に伴う人材育成プランの策定

コミュニケーション

価値観共有やモチベーション向上に向けたコミュニケーションプランの策定

「Vプラン20」達成に向けた主なKPI

300万ton以上

製品を通じたCO<sub>2</sub>削減  
貢献量(国内+海外)

70%以上

コミュニケーション向上  
によるES指数

88%以上

お客さま満足度  
アンケート調査

※当時役職

CSRに関する第三者意見

2017年度 ご意見と対応状況

昨年発行した「NORITZ REPORT 2017」に関する第三者からのご意見やアンケート、ステークホルダーダイアログを通じて様々なご意見をいただきました。主なご意見とノーリツグループの対応をまとめました。

| 寄せられたご意見      | 2017年度のノーリツグループの対応                               |
|---------------|--------------------------------------------------|
| 経営とCSRの融合について | 中期経営計画「Vプラン20」の達成に向けた事業計画に加え、『Q+ESG』のKPIを設定しました。 |
| グローバルでの価値共有   | 新たに策定した「ミッション・バリュー」をグローバルで展開し、浸透活動を開始しました。       |

2017年度の取り組みに対する第三者意見

2017年度のノーリツグループのCSR(企業の社会的責任)のお取り扱いに関して、第三者意見を提出します。

ノーリツグループでは、2017年1月から「経済的価値」「社会的価値」「ブランド価値」の3つを融合して企業価値向上を目指す、中期経営計画を運用しておられます。その意識を浸透させ実績につなげるために、品質(Q)やESGに関するKPI(主要パフォーマンス指標)の設定や、ステークホルダーダイアログを通じた経営層と外部との対話などを丁寧に実施されたことを評価致します。また、環境省「エコ・ファーストの約束」の更新や、企業主導型保育園の開園、女性リーダー育成プログラムの推進、CSR調達アンケートの拡大、情報開示の強化など、ESGの各分野での活動内容も広がっています。従来から大切にしておられる障がい者雇用は、多様な人材活躍の一側面としても、働き方改革の観点からも先進的です。こうした毎年の努力と改善を高く評価致します。

今後のお取り扱いに対する期待は2点です。まず、品質(Q)やESGのテーマは、仕事を通じて環境や社会的課題の解決につながるパス(経路)にあふれており、従業員の満足やモチベーション向上に資する

ものが多いと考えます。「やらなければならない」だけではなく「やればいいことがある」という姿勢での活動に期待致します。次に、KPIについて、今回は各テーマに対し現状からの積み上げ型を中心に設定されました。今後、特に重要な部分については、将来なりたい姿から現在に遡って設定する手法を取り入れることを期待致します。それにより、従業員の長期的なキャリア意識や、会社とともに成長するイメージ醸成につなげる工夫もできると考えます。

株式会社 日本総合研究所  
創発戦略センター/  
ESGリサーチセンター マネジャー  
村上 芽さま



第三者意見を受けて

村上さま、ノーリツグループの2017年度の取り組みに対しご意見を賜り、感謝申し上げます。「NORITZ REPORT 2015」発行時より4年にわたり継続してご意見を頂戴し、さらには平素より当社の「経営とCSRの融合」に向けた取り組みについてアドバイスをいただき、ありがとうございます。

「NORITZ REPORT 2018」は中期経営計画「Vプラン20」達成に向けた初年度の取り組みを報告するとともに、財務・非財務を統合しどの様に企業価値を向上しようとしているのかを掲載しています。また、長期的な将来価値と成長性につながる資産として、非財務の活動を『Q+ESG』のキーワードで報告しています。

2017年度は「経営とCSRの融合」をめざす中期経営計画に従い、様々な取り組みをおこなってきました。特に『Q+ESG』に関するKPIの設定は「経営とCSRの融合」を実現するためには不可欠だと考え、こだわりを持ち進めてきました。その内容につきまして村上さまより評

価いただけたことは、今後の活動の励みとなります。引き続きCSR委員会を通じてPDCAを回し、確実な達成に向け活動してまいります。

一方、今後への期待としてご意見いただいておりますとおり、従業員の満足やモチベーション向上のためには、「将来なりたい姿」からのバックキャストと中期経営計画の施策である企業風土の「改革」が重要と考えています。社会課題の解決を機会として捉えるとともに、自発的に行動できる人材を育成してまいります。

株式会社ノーリツ  
取締役 兼 常務執行役員 (CSR担当役員)  
竹中 昌之

